準デジタル
アーキビスト
資格取得講座

デジタルアーカイブ活用と開発プロセス

目的

- デジタルアーカイブの利用は、資料の提示や提供から始まり、課題解決、知的創造等の処理へと進めてきた。また、デジタルアーカイブを活用し、新しい「知」の創造を求め、さらに新しい「知」と人々の経験を付加し、新たな知的活動へと発展させてきた。ここでは、デジタルアーカイブの開発と活用プロセスについて考える。

- デジタルアーカイブの活用
- 資料の選定評価
- デジタルアーカイブのプロセス

１．デジタルアーカイブの活用

デジタルアーカイブ活用の種類

- デジタルアーカイブ活用の構成

①資料（データ）の提示
- 単体での提示
- 構成された提示

②課題解決
- 資料（データ）分析

③知的創造
- 知的創造サイクル

活用①資料（データ）の提示

- 単体での提示
  - 岐阜女子大学デジタルミュージアム
  - 和田家おぅらい

冬の和田家　雪が屋根から自然に落下する　【目録】
The Wada House – Snow falls naturally from the roof.

稲架小屋　秋に刈り取った稲を保管　【目録】
Hasa-goya – stores reaped rice plants in Autumn.

板蔵　屋根を葺き替えるための茅や農機具を保管　【目録】
Ita-gura – stores agricultural tools and bunches of pampas for reroofing

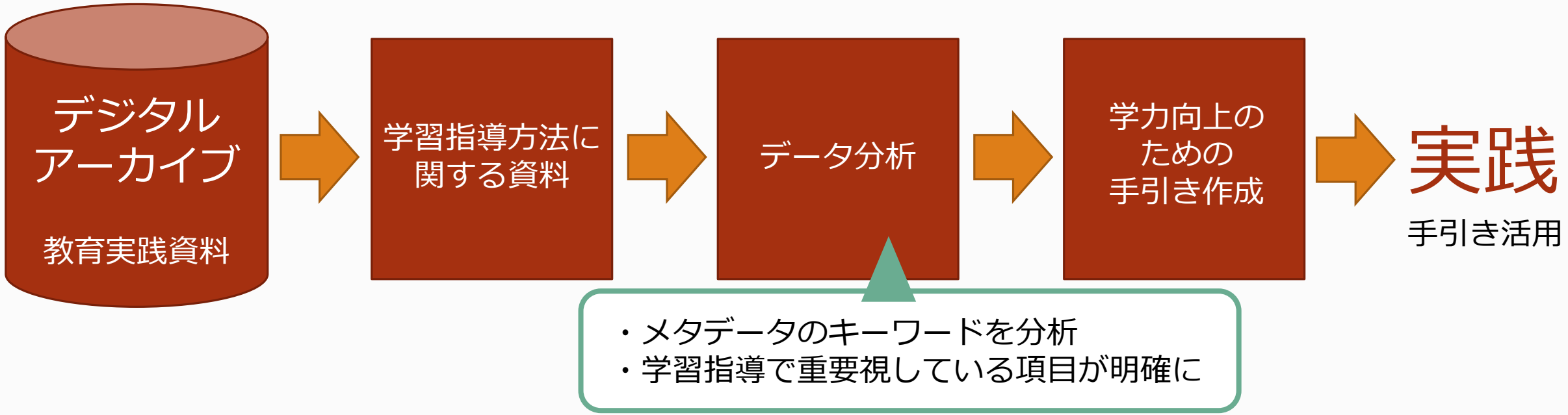
和田家おぅらい

- 構成された提示
  - 木田宏オーラルヒストリー
    - 動画、文章、関連資料
  - 沖縄おぅらい
    - 画像、文章、リーフレット、Webコンテンツ等

木田宏
オーラルヒストリー

活用②課題解決

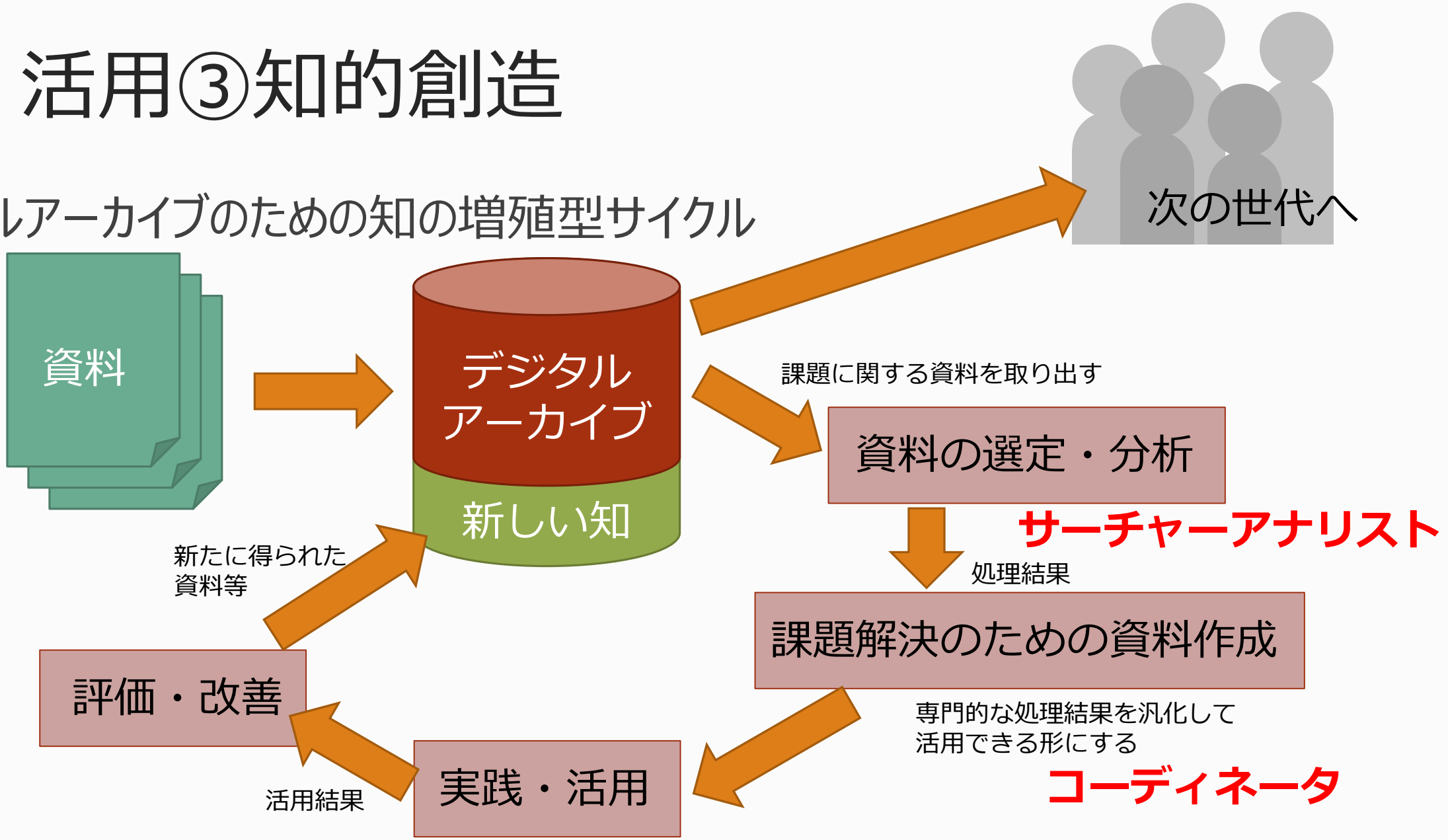
- 沖縄の学力向上
  - デジタルアーカイブされた資料の分析



参考資料：DataReport 139,140,141,142,143,145

活用③知的創造

- デジタルアーカイブのための知の増殖型サイクル



参考資料：DataReport No.42,43,59,70

２．資料の選定評価

選定評価とは

- 資料を収集して保管するとき
- 収集した資料を活用するとき

→ 適否を検討

- 検討する条件
  - ① 保管・流通の適否
  - ② 資料保持者の慣習・権利（著作権、肖像権、所有権、個人情報など）
  - ③ 社会的背景（地域の人々の心情的背景）
  - ④ 文化的内容（文化・歴史・伝承の視点における価値）
  - ⑤ 利用者の状況（教育的配慮）
  - ⑥ 利用環境（提示利用の状況）
  - ⑦ 保管の安全上の課題（国内外の社会的背景など）

選定評価の事例

- 仲本實 氏「戦中・戦後の子どもの視点からのオーラルヒストリー」

- 幼少期に沖縄戦を体験した仲本實氏が、その当時の状況や心情について語った話をまとめたもの
- 選定評価について具体的な検討が行われたコンテンツ

- ７つの「選定評価項目」を構成

学校教育利用を目的としたデータを使用しています。ご利用の際は、文化庁で示されている 「学校教育での自由利用」 を守って利用してください。
Copyrightc 2011 Gifu Women's University. All rights reserved.

選定評価の事例

① 保管・流通の適否
・・・記録したデータの一部を公開

② 資料保持者の慣習・権利（著作権、肖像権、所有権、個人情報など）
・・・仲本氏と著作権、プライバシー権などについて契約を交わす
・・・沖縄の人々の価値観や名誉に対して損益を与えていないか

③ 社会的背景（地域の人々の心情的背景）
・・・沖縄戦の話など、対象者の心情や社会的背景へ配慮する

④ 文化的内容（文化・歴史・伝承の視点における価値）
・・・文化的・学術的視点から、デジタルアーカイブに適しているかを判断

⑤ 利用者の状況（教育的配慮）
・・・利用者の年齢などから利用可能な話を選択する

選定評価の事例

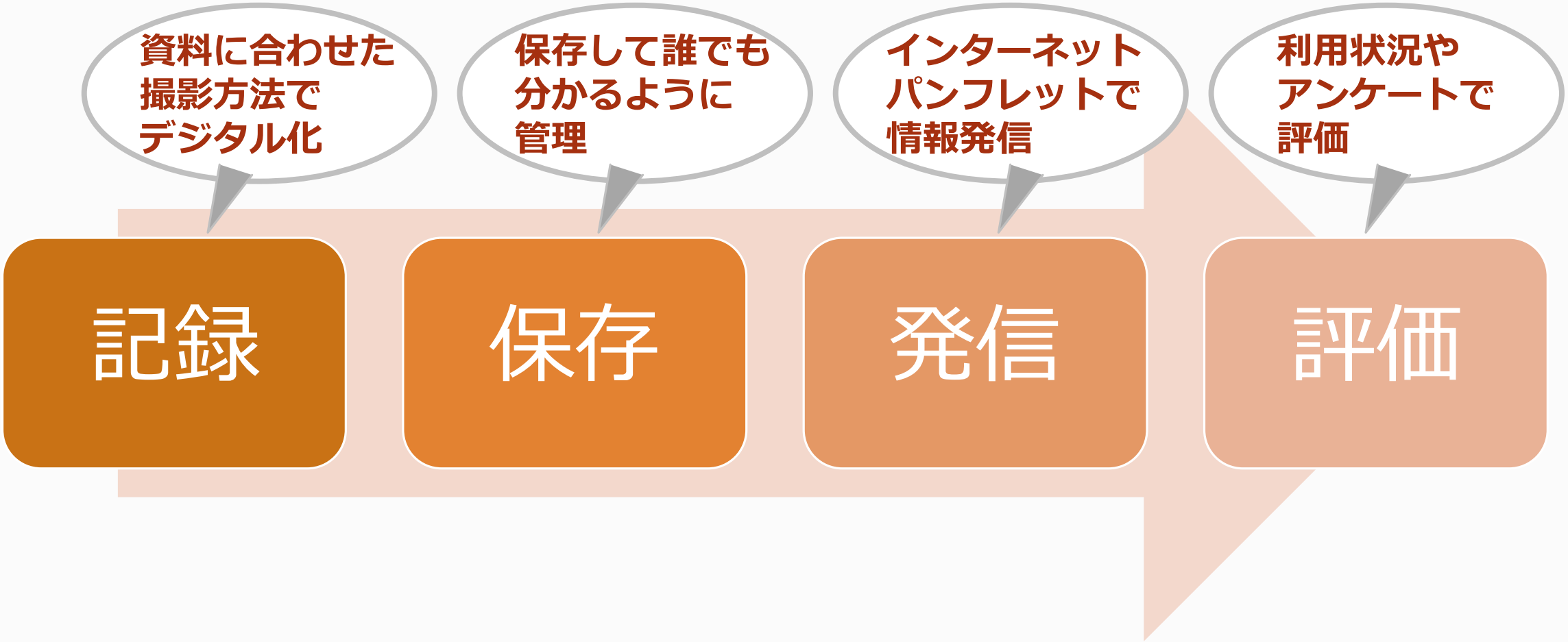
⑥ 利用環境（提示利用の状況）
・・・デジタルアーカイブを提供する機器や保管場所などの選定

⑦ 保管の安全上の課題（国内外の社会的背景など）
・・・特定の情報を含むことによるサーバ攻撃などの可能性を考える

- 利用・公開は困難と判断されたもの
  - 現在生存されている人のプライバシーに関わる話
  - アメリカ軍に関わることで提示不可能と判断した事項
  - サーバ攻撃などセキュリティ問題に発展する恐れがある内容
  - 現状では公開が困難な事項（著作権の消滅など時間経過が必要なもの）
- 長期保管され、利用可能となる数十年後か数百年後に公開される

３．デジタルアーカイブのプロセス

デジタルアーカイブの流れ



資料の収集

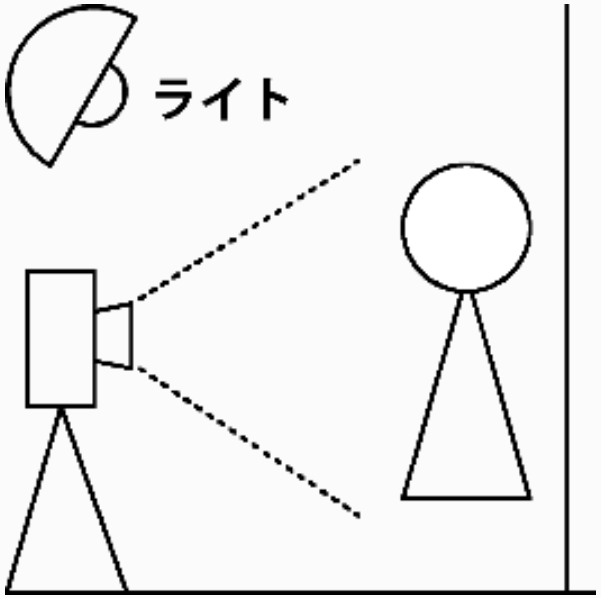
- 事前調査・・・対象に関する調査
  - 歴史的背景→撮影対象の決定
  - 周辺環境の調査
  - 撮影前に現地取材を行うことも
- 管理者、管理機関への手続き
- 撮影計画
  - どの形式でデジタル化するか（静止画、動画、音声、方向、GPSなど）
  - 計画書の作成（撮影漏れや撮影方法の偏りを防ぐ）
- 機材の準備

資料の記録（撮影）

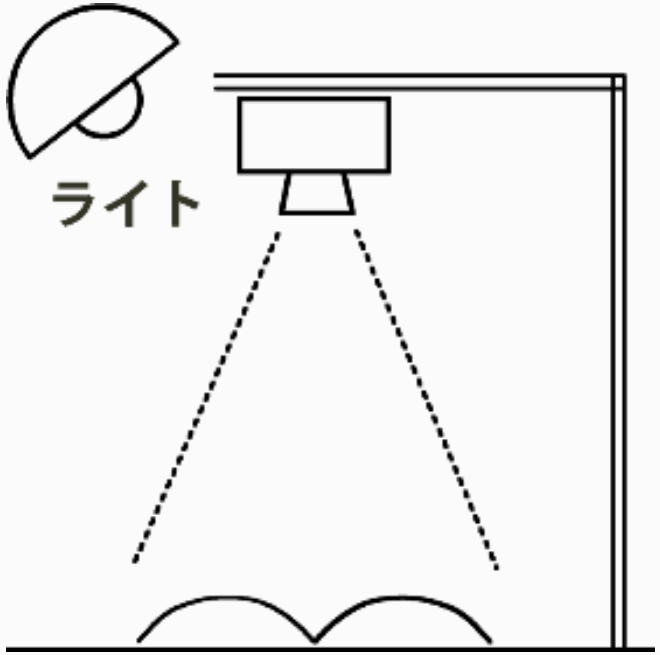
- 映像での記録
  - 静止画・・・建物や静物など、動かない場合
  - 動画・・・人物の動き、時間的な流れの場合（静止画に加えて）
- 音や音声の記録
  - 言葉、音楽など
  - 自然の音（鳥、虫、川の流れなど）
- 環境データの記録
  - 気温、湿度、明るさ、方角
  - 位置情報（GPS）

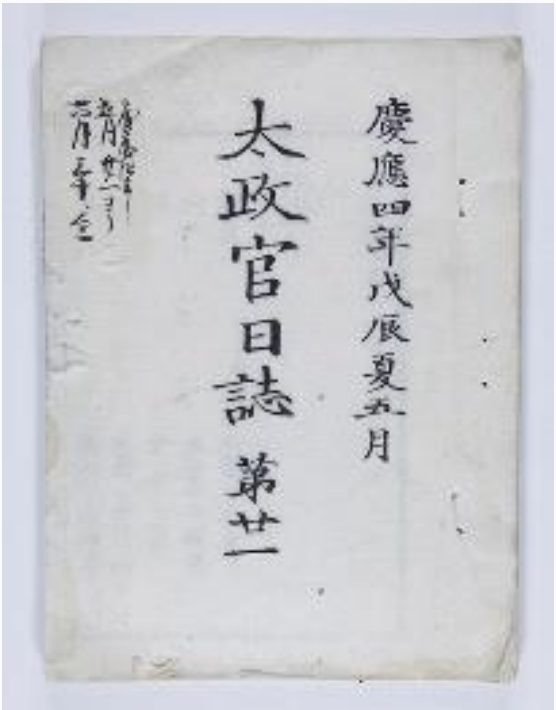
資料のデジタル化

- ポートレート



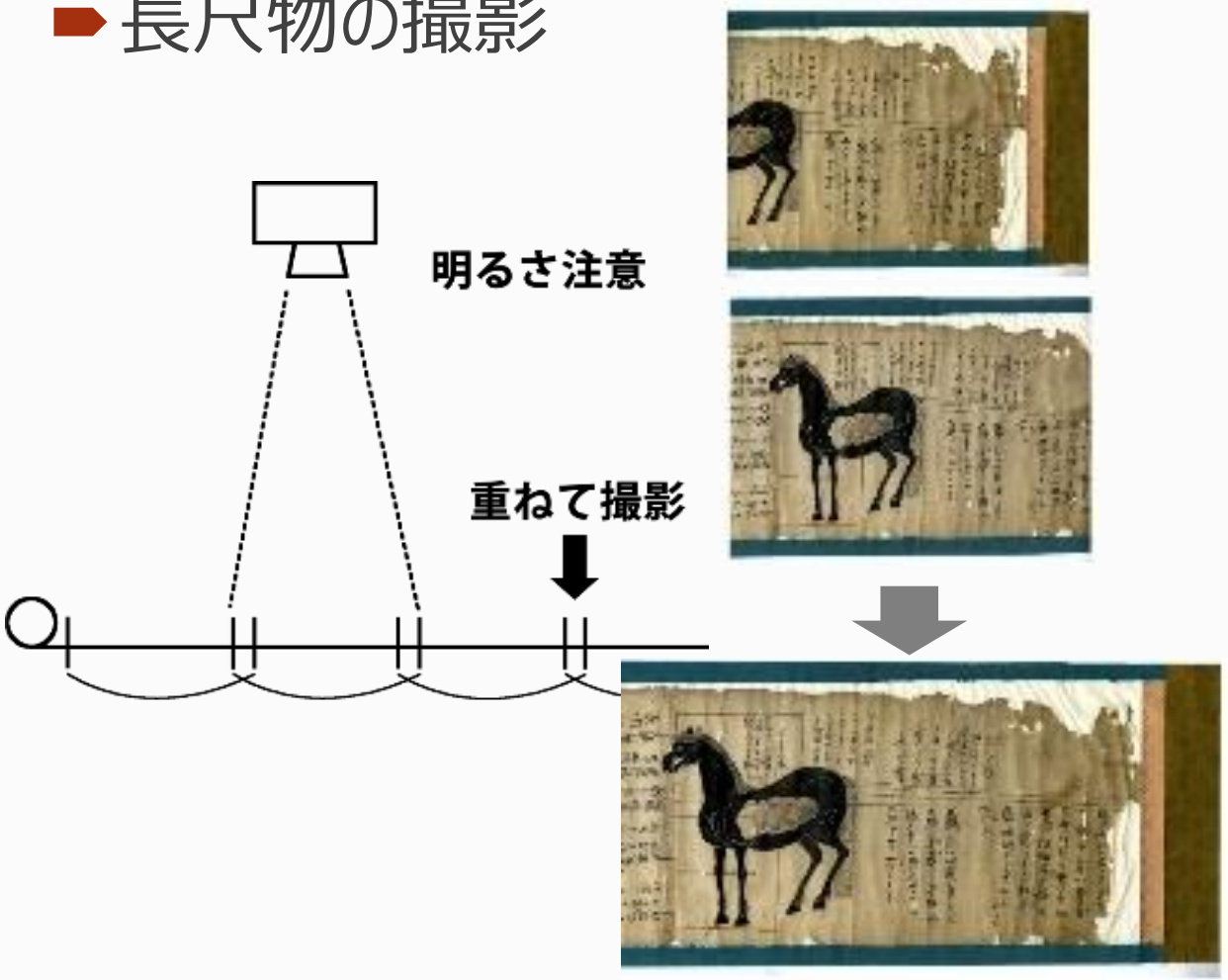
- 接写撮影



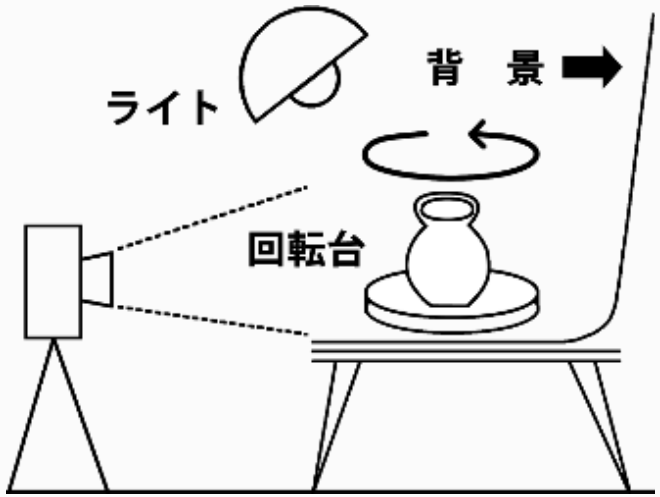


資料のデジタル化

- 長尺物の撮影



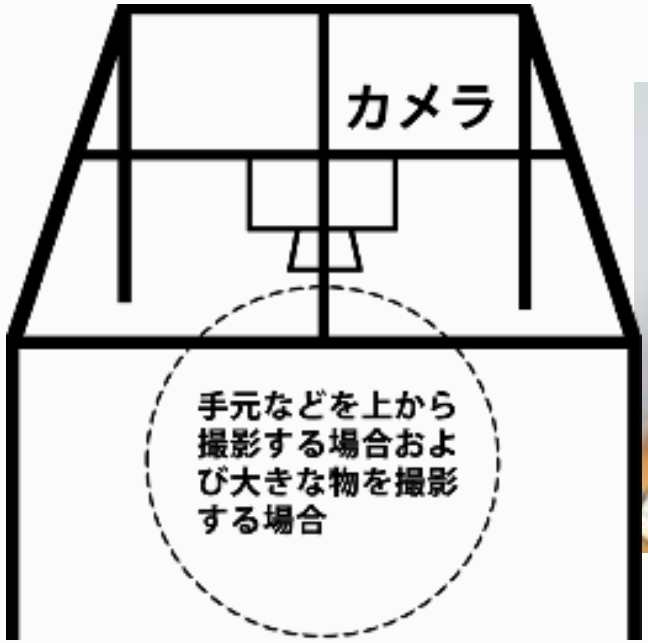
- 回転台を使った撮影



資料のデジタル化

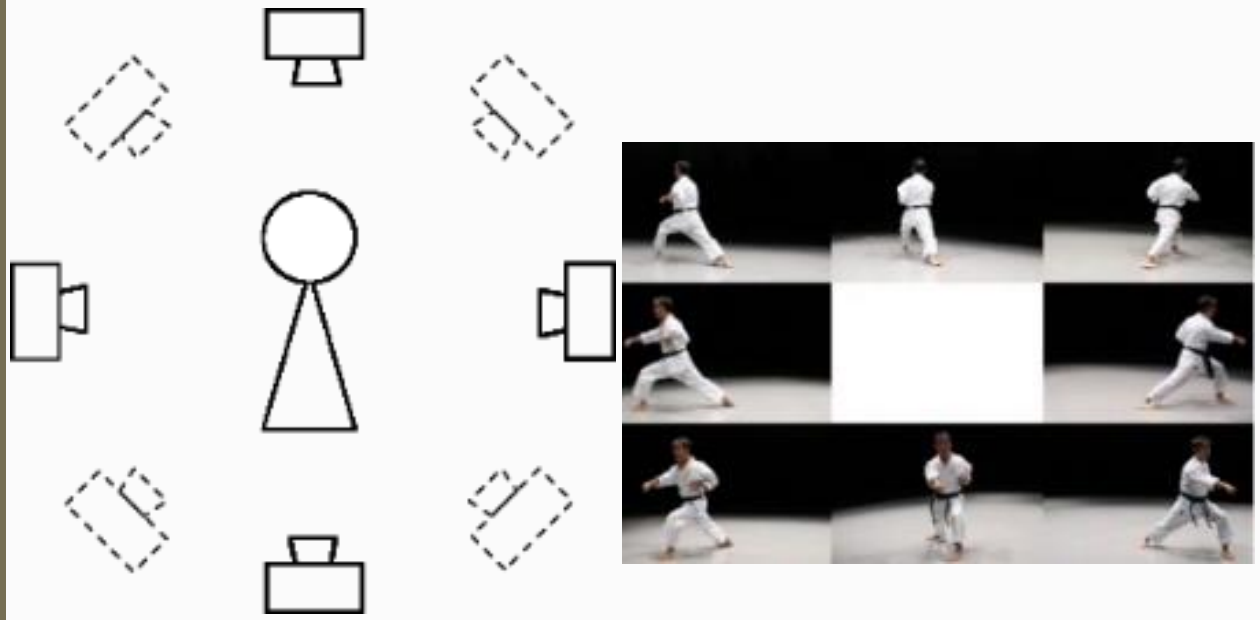
- ライティング

- 天井カメラを使った撮影

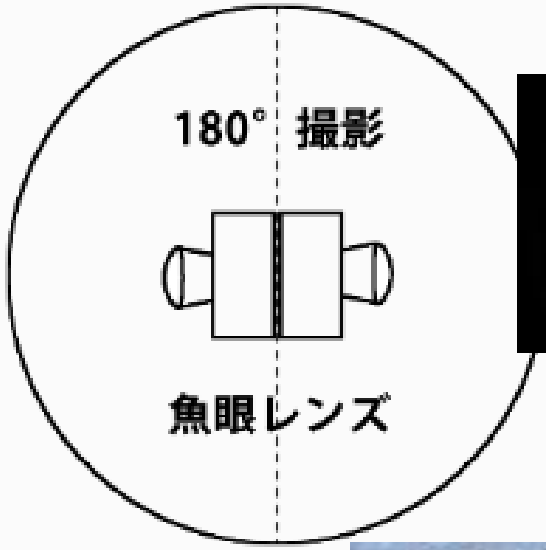


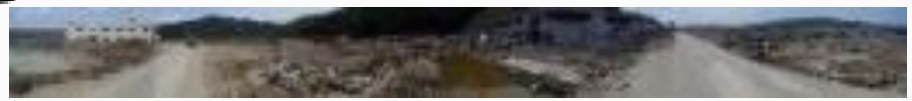
資料のデジタル化

- 多方向同時撮影



- 魚眼レンズによる360度撮影





資料のデジタル化

- ドローンを使った撮影

デジタルアーカイブ活用と開発プロセス

- デジタルアーカイブの利用は、資料の提示や提供から始まり、課題解決、知的創造等の処理へと進めてきた。また、デジタルアーカイブを活用し、新しい「知」の創造を求め、さらに新しい「知」と人々の経験を付加し、新たな知的活動へと発展させてきた。ここでは、デジタルアーカイブの開発と活用プロセスについて考える。

- デジタルアーカイブの活用
- 資料の選定評価
- デジタルアーカイブのプロセス

課題

- デジタルアーカイブの活用について具体例を挙げて説明してください。
- 資料の選定評価について説明してください。
- デジタルアーカイブのプロセスや記録方法について説明してください。